

## 『旅立ち。卒業、十の話』(2008年)

あさの あつこ / (他) 著   メディアファクトリー

さまざまな「卒業」をテーマにした短編集です。物語の主人公たちは、いろいろなものからの卒業を経験します。学校、家族、恋人、そしてこれまでの自分から旅立とうとします。慣れ親しんだものから旅立つときには、不安や切なさを感じるかもしれません。本書は、卒業が、つらく淋しいだけではなく、次へ進むための第一歩なのだという、前向きな気持ちを教えてくれます。



## 『卒業』(2004年)

重松 清 / 著   新潮社

危篤の母、厳しい教師だった父、自殺した親友、幼いころに病気で亡くなった母。亡くなった人と遺された親しい人達の心残りや思いを綴った4つの短編で構成された本です。

まだ妻のおなかに子どもがいるときに自殺した学生時代の友人・伊藤真。十四年経ち、その子どもも再会した渡辺。中学生になった亜弥に父親はどんな人だったか思い出して教えてほしいと言われ渡辺は伊藤の思い出を語る。



## 『卒業の歌 ～ぼくたちの挑戦～』(2010年)

本田 有明 / 著   PHP研究所

翔太の通う学校には、クラス対抗の校内合唱コンクールがある。発表の十月にむけて課題曲も発表されたが、翔太のいる三組は他の対抗イベントでも常に最下位だ。一度くらい金賞を取りたいと思っていると、友人滝田の提案で「新しい歌を作る」ことに。クラスみんなで作った卒業の歌を練習していく中、コンクール前で作曲を担当した麻里恵がアメリカに転校することを知り、まとまりのない三組がコンクール金賞に向けて走り出す。



## 『檸檬のころ』(2005年)

豊島 ミホ / 著   幻冬舎

地方のとある進学校に通う高校生やかつての高校生の青春のひとコマを描いた7つの短編が収められている。保健室登校をするようになった生徒とその理由がわからない友達の物語。司法試験に5回失敗しても今も挑戦中の卒業生が、同級生との再会で、高校時代を少し明るいトーンに塗りかえる物語など。登場人物たちは交差したりつながりながら、恋、友情、劣等感、進路や卒業などで揺れ動く。外からは見えない切ない思いが伝わる。



## 『黄金旋律 旅立ちの荒野』(2008年)

村山 早紀 / 著   角川書店

臨は14歳の少年。父と母と、いとこの優、猫のアルトと一緒にくらしている。幸せそうに見える臨の家だが、数年前に兄の律が事故で死んでしまったから、家族は笑顔をなくしたままだ。

ある日、臨は大けがをして意識を失う。目覚めたのは、数百年後の病院。人間はほろびてしまった後だった。ロボットの看護師から手当てを受けて、臨は元気を取り戻していく。そして臨は生きるため、病院から荒野へと旅立つ。



## 『卒業。』(2007年)

豊島 ミホ / (他) 著   ジャイブ

卒業式の帰り、お互いに一生に一度だけ使えるSOSとして卒業証書を交換する「卒業証書」や中学校生活を満喫しようと頑張ったのに思い通りにならない、ほろ苦いおはなしの「神様の祝福」、悪友たちと考えた卒業生を送る会での出し物の練習中に死体を発見してしまう「たぶん、天使は負けない」など、7つのおはなしが入っています。

恋、将来への不安、友人関係の悩みなど、身近に思える物語が詰まったアンソロジー。

